

コラム 人生課長の独り言～一歩進めるためのヒント～

学校との「つながり」を育む教師とは

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターの研究（※）によると、「学校とのつながり」の強さは、いじめの加害経験や学校を休みたいと思う割合、実際の欠席が少ないなどへの好影響があるとされています。

そして、そのような生徒を育む教師の特徴（学校保護要因）として6つの因子の存在を示しています。詳しくは研究報告書（右の二次元コードからDL可）をご覧いただきたいですが、以下に、私が注目する項目を紹介します。

「教職員との関係性」（7項目）

- この学校には、私がうまくやれると信じてくれる先生や大人がいる。
- この学校には、私にベストを尽くしてほしいと思ってくれる先生や大人がいる。
- この学校には、私の気持ちを確かめてくれる先生や大人がいる。
- この学校には、私が言いたいことがあるときに、聞いてくれる先生や大人がいる。
- この学校には、私がよいことをしたときに、それに気づいて伝えてくれる先生や大人がいる。
- この学校には、私のことを本当に心配してくれる先生や大人がいる。
- この学校には、私がいないときに、そのことに気づいてくれる先生や大人がいる。

「保護的規律」（4項目）

- この学校の先生は、いじめがあったときに、きちんと注意、指導してくれる。
- この学校の先生は、暴力があったときに、きちんと注意、指導してくれる。
- この学校の先生は、冷やかしやからかい、悪口、無視があったときに、きちんと注意、指導してくれる。
- この学校の先生は、校則やルールを守らない人に対して、きちんと注意、指導してくれる。

「指導・援助の質」（19項目）

- この学校の先生は、学校での勉強が実生活にどのように役立つか教えてくれる。
- この学校の先生は、生徒みんなが学業でうまくいくように促（うなが）している。
- この学校の先生は、生徒が欠席から戻（もど）ったときに遅れを取り戻せるように助けてくれる。
- この学校の先生は、お互いに異なる生徒同士が仲良くすることが重要だと伝えている。
- この学校は、学ぶことをサポートしてくれて、魅力的な場所である。
- この学校は、生徒に他の人がどのように考え、どう感じるかを理解するように教えている。
- この学校は、学校のルールを破った場合にどうなるかを、生徒にはっきり伝えている。
- この学校の先生は、学習に役立つ助言をくれる。
- この学校は、生徒に自分の気持ちをおさえることについて教えている。
- この学校は、学校のルールについて、生徒にていねいに説明している。
- この学校は、どんな行動を期待しているかを、生徒に明確に伝えている。
- この学校は、生徒に他の人の気持ちを気にかけるように教えている。
- この学校の先生は、すべての生徒を大切にしている。
- この学校は、トラブルを解決するために、みんなから話を聞こうとする。
- この学校の先生は、必要なときに、学校の勉強がわかるように、一生懸命に手助けしてくれる。
- この学校は、学校のルールを破った生徒を、公平に扱っている。
- この学校は、生徒同士のトラブルの解決を手助けしてくれる。
- この学校の先生は、進学や将来の仕事でうまくいくように、一生懸命（いっしょうけんめい）に励（はげ）ましてくれる。
- この学校の先生は、生徒の違い（例えば、性別、人種・国籍、文化など）を尊重している。

一人の教師が全てを備える必要はありませんが、学校全体を俯瞰してこれらの項目はどの程度、保障されているか振り返ってみませんか。（高橋）

※宮古紀宏(2025) 国立教育政策研究所プロジェクト研究

「不登校・いじめ等の生徒指導上の諸課題と学校風土等との関連及び効果的な取組等に関する調査研究」

人権教育・生徒指導課のホームページもご覧ください。
<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/350/>



Vol.20

発行日 令和8年1月

岡山県教育庁 人権教育・生徒指導課

生徒指導 Leaflet @ OKAYAMA リーフ

誰一人取り残されない岡山県の教育に向けて

教師の役割について 考える

学校は教師と児童生徒が共に生活する場です。長らく、教師＝教える人、児童生徒＝教わる人という関係性で学校は成り立っていました。この関係性が全くなくなるわけではありませんが、未来に目を向けると少し違った関係性についても理解する必要がありそうです。

今回は教師の役割とは何か？考えてみましょう。

岡山県教育庁
人権教育・生徒指導課

〒700-8570
岡山県岡山市北区内山下2-4-6
Tel:086-226-7589 Fax:086-224-2134



Q. 「教師はファシリテーターだ」と聞きましたが、役割が変わったのですか？

A. ファシリテーターは、教育の現場で「学習を円滑に進める（促進する）人」と理解することができます。従来の教師が「知識を教える人」という役割を中心に担うティーチャーであったのに対し、ファシリテーターとしての教師は、例えば次のように児童生徒の学びのプロセスをサポートします。

- ◆ **参加を促す**: みんなが意見を出しやすい雰囲気をつくります。
- ◆ **議論を深める**: 話し合いが途切れないように、質問を投げかけたり、整理したりします。
- ◆ **目標達成を助ける**: 学びのゴールにたどり着けるように導きます。

つまり、「児童生徒自身が考え、気付き、成長する手助けをする」役割を担うと言えますが、どちらも児童生徒の成長を促すという意味では同じで、そのアプローチの仕方が異なると考えるべきでしょう。

その役割はおもに「主体的・対話的で深い学び」の実現のために求められている訳ですが、教育にファシリテーションを取り入れることで、児童生徒が自ら積極的に学ぶ主体性の向上や自分で考えて問題を解決する力などが培われます。また、他者の意見を聞き、自分の意見を伝えるコミュニケーション能力や学習意欲の向上も期待できると考えられています。

社会の変化に伴い、与えられた知識を覚えるだけでなく、「自ら情報を収集し、判断し、活用する力」が求められたことがその背景にあると言えます。

ファシリテーションするとは

では、具体的にどうすることで教師はファシリテーターになれるのでしょうか？専門的な考え方ではないかもしれません、簡単に言うと、児童生徒が「〇〇しやすくする」ということはないでしょうか？



『提要』のダウンロード
はコチラ

日々の授業で工夫・配慮した手立てによって、児童生徒が見通しを持ちやすくなったり、思考しやすくなったり、話しやすくなったりしたならば、その先生はファシリテーターとしての役割を果たしていると言えるのだと思います。つまり、「主体的・対話的で深い学び」が実現している授業においては、教師は「ファシリテーター」として機能していると言えるでしょう。

「この手立て（工夫・配慮）で児童生徒は、〇〇しやすくなかったか？」常に振り返ることが大切なかもしれません。

生徒指導の役割も

過去（学校が荒れていた時代）の生徒指導は、規範（スタンダード）から逸脱する方向で問題行動を起こす児童生徒を「管理・修正する」ことが主な役割として求められ、決まりを守らせることができる教師、指示に従わせることができる教師が生徒指導力のある教師として学校を支えてきました。そういった役割が全くなくなったわけではありませんが、現在では、外向きのエネルギーではなく、自傷など内向きのエネルギーとして自己攻撃を行う児童生徒を支えるという役割も求められています。決まりでいうなら、「どのような決まりなら、児童生徒は自ら守ろうとするのか？」を共に考え、創り出すことができる力が生徒指導力として必要な時代であると言えます。

一方、教師はファシリテーションに徹すれば良いのかと言えば、そうではありません。誰しも初めての事に挑戦する時は不安で、最初の一歩は踏み出し難いものです。単元の導入や不安を感じる児童生徒が多い場合には、いきなり全て「させる」のではなく、「まずは、やり方を教える」などの「支える」指示により動機付けを高めるというティーチャーの役割が重要になる場合もあります。ティーチャーかファシリテーターかどちらか一方ではなく、児童生徒の実態に応じた使い分けが大切だということです。

POINT

これから社会で生きる力を育むためのアプローチの仕方
「指導してはいけない」訳ではない

指導上の留意事項で、児童生徒は「〇〇しやすくなかったか？」

役割は
一つではない